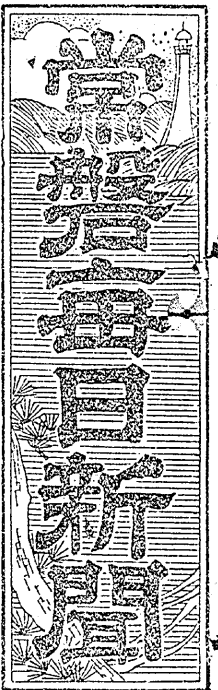


刊夕日九十月四



定価一紙五銭一ヶ月一元
廣告料五銭十二字一頁五銭
日曜祭日の翌日休刊
発行所 常磐新報社
印刷所 常磐印刷株式会社

平町を觀る (2)

山口彌一郎

平町の字別の町名をみると近世の城下町として商工業を中心とした町屋と居城を中心とした待屋敷との關係がよく窺はれる。待町としては仲間町や鷹匠町等、職人町としては鍛冶町、紺屋町、番匠町(大工町の意)白銀町、研町、材木町等其職に従つて集中分居した様が見られる。殊に鍛冶町、紺屋町、大工町の町名は全國八十一の都邑中各四十七、三十一、三十一の多くを數へ得る。一本町は基本の町即ち中心の町の意で一丁目より五丁目まで計画的な町割が施されてゐたことが知られる。

二、蛇行する夏井川

上小川村に來るまでは阿武隈山地に深い峡谷を造つて流れる夏井川も平野に出ると開放されて自由な流路をとる様になる。川前より上小川村まで水力發電所が四ヶ所ある。阿武隈山地の東麓は急斜面をなしてゐて北の木戸川にも南の鮫川にも同じ様な場所に發電所があつて海岸地の町や村に電力を供給してゐる。水利權の問題で日立發電所の附近にある昔ながらの川前の

の村が電燈のお蔭を受けられなかつたり、平町で使用される電力が主に中通り地方から來る等は皮肉な社會現象であるが濱通りの電力文化を助ける力は大きい。昔の夏井川は下小川、赤井、平窪附近の平野を自由に蛇行して山麓を洗つたことがあらう。上平窪から下平窪までの山脚の孤状は夏井川の侵蝕によるらしい。土地が漸次隆起して蛇行の幅は狭められ、川底が平野より相當低く兩岸に土堤を必要としなげ場所も多いが一度氾濫するとその被害も大きい。鎌田、山崎の間が狭いので好間川も新川も氾濫し易いが又肥沃な腐蝕土も置いて行くのである。鎌田より下流は土堤の力で氾濫を防ぐ外ない。

ノート

茶の樹はアジヤ南方の特産物で太古から南印度交趾支那支那地方に自生し日本では九州四國には野生の茶樹があつた

三、城山の臺地

臺地に居城があつて山麓の平野に都市の發達するのは世界的のやうである、殊に山地に富む日本ではその例が多い。東京の山の手の東端には上野公園、宮城、

芝公園等があつて西部の武藏野臺地に續いて居り、東部は下町と言つて専ら商工業街が占め、下町風の娘等とその風俗にまで特色を見

二明日の献立

- 【朝】みそ汁、切乾大根
- 【晝】フライ、鮮魚
- 【晚】焼き肴、ほうぼうかながしら、ふで生姜

せてゐる。平町の臺地も大館、高月臺、揚土、舊城跡松ヶ岡公園等が御臺境の方から續いてゐるその臺地末端の形勝は位置に物見ヶ岡稻荷子鎌倉神社松ヶ岡公園等がある。

常磐文藝

春の姿 静 寒 爐

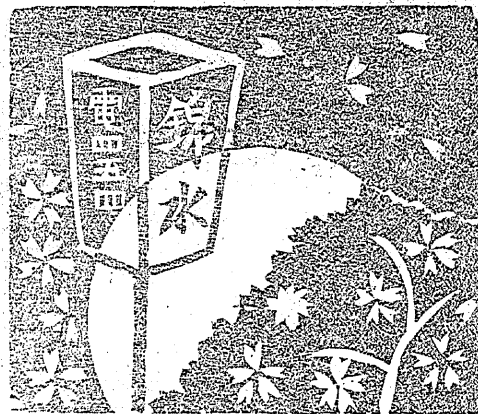
なごやかな春のあしたうぶすなの樹々の装い緑りの丘の彼方！
滴りの空、潤いの土を芽ばえの悦びを秘めて軽く踏みリズムの快！
さくさく
ウルトラマインの麥の畑

まどろみの春のまひるふわりふわり
薔薇色の風に
戯れの白い蝶々

羽をととして
眞晝の夢を
黄色い花に結ぶ
すやすや
若ぐさの香りが漂うとき
絹ずれの微風が
小守唄をうたふ
ウルトラマインの空の色

科人婦。科外 院醫坂井

町 田 町 平
番 九 五 五 話 電



詰折見花お

當辨入重御

御入學、御進級、御卒業ノ
プレゼントニハ是非御時計ヲ
御用命ハ……驛前通りノ
星野時計店へ願マス
記念トシテ來ル廿六日迄粗景品付
正札ノ一割引特賣御修繕ハ大勉強
致シマス

櫻花の季節になりました
お花見には是非……

夜宮の折詰

時節柄價格低廉
奉仕的勉強
平町一丁目
不寐寅
電話一四二番

御入見の折詰

- 特賣品を(一名)朗折詰で
御一人前 五十五銭
- | | |
|-------|----|
| 魚 | 七品 |
| すし | 五品 |
| 酒 | 一本 |
| 二合ビン | 一本 |
| 銘酒 | 一本 |
| サカカツキ | 一本 |
| 花カンザシ | 一本 |
- お土産品
お土産品
お土産品

せ魚清會堂

例年の通り魚清自慢の
特製 みつ豆 八錢
始めました
*お花見のお歸りには是非お立寄を！

肉 蒲 鉾

田 町 三三三屋

高久病院

院長 醫學士 高久 忠
副院長 新潟醫學士 赤羽 清
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄
内科小兒科 外科花柳病科
耳鼻咽喉科 レントゲン科
平町田町 電話五一三番

小名濱の疑獄 築港所長を中心に

請負人が策謀した瀆職事件 藝妓も介在して悪業底なし

昨日豫審終決す

石城郡小名濱築港所長樗木篤夫を中心とする疑獄事件は、福島地方裁判所平支部に於て豫審判事荒井虎雄氏が審理中の處、昨十八日豫審終結犯罪の嫌疑十分なりとして公判に廻送された、事件の内容は當時所報の如く各被告が築港工事に夫々特種の利権を獲得せんとし、所長を圍繞して贈賄策謀此間所長の馴染藝妓等も介在して悪事に一脈の艶色を加ふる等事件の全貌は總べて左記豫審終結書に依つて白日下に暴かれて居る。

豫審終結決定

本籍 静岡縣榛原郡金谷町
金谷河原二百七十五番地
 住居 福島縣石城郡小名濱町字横町三十七番地
 醫師 久保田眞
 明治九年九月一日生
本籍 並住居 福島縣石城郡小名濱町字定西五十九番地
 砂利販賣業 高木武士
 明治卅五年一月二十一日生
本籍 並住居 福島縣石城郡江名町大字江名南町十四番地
 土木請負業 鈴木省三
 明治二十一年七月五日生
本籍 並住居 福島縣石城郡湯本町大字湯本字辰ノ口四十三番地
 貨物自動車業 長岡義守
 明治十八年六月十五日生
本籍 並住居 福島縣石城郡平町字十五丁目二十二番地
 木材商兼土木請負業
 馬目雄次郎
 明治十四年八月十九日生

本籍 鹿兒島縣薩摩郡高江村高江五百八十五番地
 住居 福島縣石城郡小名濱町字定西二百三十六番地
 内務技師 樗木篤夫
 明治二十六年十月七日生

右被告人眞、武士、省三、義守、雄次郎に對する贈賄被告人篤夫に對する瀆職被告事件に付豫審を遂げ決定すること左の如し

主文

本件を福島地方裁判所平支部の公判に付す

理由

(第一)被告人久保田眞、馬目雄次郎は福島縣石城郡小名濱町所在鮫川砂利合資會社の無限責任社員被告人高木武士は其の有限責任社員として同會社に於ては同町所在内務省仙臺土木出張所

眞實其の納入は前記會社に於て爲し居りたることを認むるに先被被告人久保田眞は昭和五年八月九日頃被告人樗木篤夫に對し若し前記製菓石供給を被告馬目雄次郎に於て落札し前記會社に於て其の納入を爲すこととなりたるときは一立坪に付金一圓の配當金を交付すべきことを約したるも同會社は該納入に付損失を來したる爲右約旨を履行せざりしか被告樗木篤夫より再三要求せられたるに因り右約旨の履行を昭和六年度製菓石納入に付前記會社を指名入札人に指定方取計を求むる旨を被告馬目雄次郎と六月四日頃前場被告人オウデ木篤夫に於て同人に對し金五千五百圓を交付し

(二)被告人久保田眞、馬目雄次郎、武士、省三、義守、雄次郎は其の共謀の上昭和六年二月頃被告人オウデ木篤夫より右高木武士を通過し温泉旅行を要求せられ且其の馴染藝妓石城郡湯本町新龜屋抱巴事大泉キチヲに對し着物を與へられ後被告樗木篤夫に依り又は同人の意見を徵し決定せらるゝことを知り

(一)被告人久保田眞は單獨に於て昭和五年八月中旬頃前町定西二百三十六番地被告人樗木篤夫に於て同人に對し昭和五年年度製菓石納入に付鮫川砂利合資會社代表社員たる被告人馬目雄次郎を指名入札人に指定方取計を懇請し其の趣旨を以て家屋買入の祝儀名義の下に金三百圓を交付し

投宿し同月二十三日迄滞在し其の宿泊料遊興費旅費等合計百三十圓餘相當の差額を爲し以て何れも被告人オウデ木篤夫の職務に關し贈賄

(第二)被告人鈴木省三は昭和六年七月二十日其の養父鈴木仙松代人として仙臺土木出張所と小名濱築港所長に要する製菓石一萬二千立米を價格一立米に付金二圓九十錢納入期限昭和七年二月末日と定めて供給契約を爲し被告人長岡義守は被告人鈴木省三より其の下請負を爲し同人は被告人馬目雄次郎と共同して其の納入を爲し居りたることを種々の支障の爲前記期限迄に完納の見込なかりしを以て被告人省三、義守、雄次郎は昭和七年一、二月頃より被告人樗木篤夫に對し再三期限取計を懇願したる末同被告人に於て仙臺土木出張所長に對し納入數量を二千三百立米増額し納入期限を昭和七年六月二十日迄延期せられ度旨を申し同所に於て之を容れたるに依り前記期日迄期限延期せられたるものなることを被告人省三、義守、雄次郎は共謀の上

(一)前掲第一(一)記載の如く被告人久保田眞が前掲被被告人オウデ木篤夫に對し其の趣旨の下に供與するものなることを知り乍ら其の意を諒として前記日時場所にて金三百圓及金千五百圓の交付を受け

(二)前掲第一(二)記載の如く被告人高木武士に對し自己の馴染藝妓を伴ひ温泉に旅行し度き意を洩らし且藝妓巴事大泉キチヲに着物を與へられ被告人オウデ木篤夫に對し其の趣旨の下に金三百圓及金千五百圓の交付を受け

士か前示の如き趣旨にて供與するものなることを知り乍ら前掲日時被告人高木武士の持参し來れる大島紘一疋を前記旅館山形屋に於て同家女中松イノを通し交付を受け之を直に同所に居合せたる右大泉キチヲに與へ更に前掲記載の如く被告人高木武士と共に藝妓二名を伴ひ東山温泉に投宿滞在し其の宿泊料遊興費旅費等合計百三十圓餘を被告人高木武士をして支拂はしめて其の差額を受け

(三)前記第二記載の如く被告人鈴木省三、長岡義守、馬目雄次郎が前記の如き趣旨の下に供與するものなることを知り乍ら其の意を諒とし夫々前掲記の日時場所に於て被告人省三、義守兩名より若くは被告人省三より前記金圓並小切手の交付を受け以て其の職務に關し賄賂を收受したるものにして右被告人等の各所爲は各々も犯意繼續に係るものなり

以上の事實中被告人久保田眞、馬目雄次郎、高木武士は何れも刑法第九十八條第一項第五十五條に各該當し尙被告人眞雄次郎武士の前記第一(一)(二)の所爲被告人省三、義守、雄次郎の前記第二(一)(二)の各所爲は同法第九十七條第一項前段第五十五條に該當するものなることを右は何れも之を公判に付するに足る犯罪の嫌疑十分なるを以て刑事訴訟法第三百十二條に則り主文の如く決定す

仁井田川改修の 起工地争奪

土肥課長等實地踏査

石城郡大野村より大浦村に至る仁井田川改修工事は、総工費四十五萬圓三ヶ年繼續事業として來月早々着工すべく目下土木監督所で設計中であるが着工を前に控へて上流の大野村、下流の大浦村民間に起工箇所について猛烈な争奪戦が續けられてゐるので昨十八日土肥土木課長及び遠藤河川技手木村前代議士、小林平土木監督所長一行が同川二里に亘る詳細な實地踏査を行つた。

自動車で 通行人重傷

今朝平町で

今朝午前七時半頃聯合消防隊に參加する各村消防手で難路せる平町五丁目地内田中ハマ方前本町通りで箕輪村字成澤五六新妻重春(三)は前方よりトラックに消防手を満載して來た小名濱町下明神居住自動車運転手内海貞次(三)のトラックに衝突され右腕に全治一週間の打撲傷を負つた。

出生は女兒が多く 死亡は男が多い

自然増加は百七十名 平は依然女人國

平町當局調査による昨年中の人口動態は出生數男二百六十七、女三百八十二で女兒が多く合計五百四十九名此れに對し死亡數は男百九十五、女百七十六で出生とは反對に死亡は男が優勢計三百七十一名で昨年中に百七十名の自然増加を見た譯であるがうち病死者の元因調査を見ると流行及び傳染病に依る死亡者の七十名が最高で神経系疾患の五十九名、呼吸器疾患の五十二名

臨時總會

廿一日平町で

石城郡小川江筋組合では來る二十一日午前十時より團體事務所樓上に於いて臨時總會を開會左記案を協議する

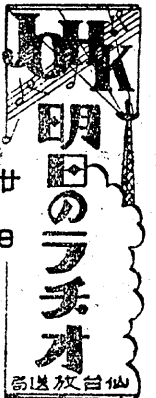
- △組合債償還方法の件
- △水利改修工事費寄附金繼續年及支出法の件
- △工費指定寄附の件

優良納稅組表彰

明日平町役場で

平町役場では二十日午前十時から同町會議室に於いて町内優良納稅組合の表彰式を舉行する事となつたが當日表彰される優良組合は次の如くである

- 中學校納稅部 紺屋町五二ノ組 二丁目庚戌組
- 鎌田町組 南町四ノ組
- 納稅所員組 役場詰員組
- 五丁目中組 第一小學校職員組 裁判所員組 南町組 研古組 古銀冶町組 新川町大正組 平機關庫組 甲寅組 五丁目下組 材木町中央組 平稅務署職員組 鎌田町第三ノ組 立町第一ノ組 搔植小路乙組 研町第二區一ノ組 新川町組 仲田町組 平郵便局員組 磐城炭礦職員組 田町組 新川町上組 田町西部組



今日改通の結果根本氏に決定した
小川江筋
臨時總會
廿一日平町で

今晚の部

- 後六、〇〇 子供の時間 童謡と唱歌
- 後六、二五 ことばの講座 「標準語と東京辯」神保格
- 後七、三〇 時事講座 「世界經濟會議直前に當り其の内容と成果及世界經濟界に及ぶ影響に就いて」
- △共有金途用の件
- △臨時常設委員設置の件
- △臨時職員設置の件

明日の部

- 前六、三〇 基〇ドイッ語講座(五)橋本忠夫
- 前九、一〇 料理献立「若鶏のグリニー」朝倉長吉
- 前一〇、三〇 家庭講座 「晩春茶の湯」終栗山善四郎
- 後〇、〇五 管絃樂 東京ラヂオオーケストラ
- 後二、〇〇 婦人講座 「婦人辯護士は如何なる方面に活動すべきや」片山哲
- 後二、二〇 運動競技 「東

自動車に轢殺

上遠野の小學生

石城郡上遠野村字根岸自動車營業者馬上鐵夫方山野國次(三)は昨十八日午前七時頃トラックに鹽を満載して同地内を逆行せんとした際同所を通行せんとした同村小學校六年生市之助長男上遠野(一)を轢倒し即死せしめた加害者山野は目下植田署で過失致死として取調中

表彰者

郡内の五氏

石城畜産馬組合員で今回農林省の優良種馬飼育者として榮ある菊花御紋章入り奨励金授與證を下附される優良種馬飼育者は左記五名である

- 大竹政治郎(三坂)鈴木民好 佐川保名(澤渡)蛭田

關西旅行

二十一日出發

磐城高等女學校にては來る二十日四學年五百五十名が關西方面の修學旅行に出發するので三年生以下は新舞子へ遠足運動會を催すと

裁判所だより

▼新潟縣生れ目下石城郡湯本町字三國二百八番地古物商松崎澤吉(四)は過般來平檢事局に召喚され小林檢事係取調中の處本日横領罪と決定起訴したので來る二十六日平區裁判所に於いて中島判事係の下に公判開廷される事になつた事件の内客は被告松崎は昭和六年十月新瀉縣中頸城郡新井町城倉可或より同郷の關係から石城郡湯本町澤田ヨシ、比佐ハル、御代キク、後藤靜藏、柳生秀吉、佐々木ヲルの六名に對する貸金百二十九圓四十錢の取立を依頼した處全部受取りたるに拘らず城倉に交附せず自己の用途に費消横領したものである

在平各校

臨時休校 等學校及び各小學校にては來る二十

義経

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒圓玉演
近藤紫雲畫

第三百十七號 佐々木見山

悠々と構へる見山

三月十五日、菊地大六と佐々木見山との試合當日、場所是有馬邸の馬場、家中一同見物致し居る。菊地大六は出て来たが佐々木はまだ出て来ません、そこで門人が迎ひに行きました

門人「先生、もう菊地どのは見えて居りますで、先生これは怪しからん何處へ行つたかナ、コレ誰も居らぬか」
○「なんだの大きな聲で呼ばしつて」
と云ひながら出て来たは僕定八、生れは飛驒の高山在蛇塚といふ所

定「ヤーこれは中村さんか何だね」
中「先生はどうした」
定「風呂に行きました、もう歸つて来るでせう、まあ一服喫んで待つせえ、好い天氣だのう、上野や向島は人が出るでせう」

中「先生は風呂に行つたと悠長な方だナ、イヤこれはお歸り遊ばせ」
佐「どうした中村、なんぞ用か」
と云つた佐々木見山手拭で額の汗を拭ひ

佐「好い天氣だナ、風もな

し花見には最上の美日だナ向島へでも行くか」
中「これは怪しからん、今日は試合の當日にございませう」
佐「誰が試合をする、相手は何者だ」



「大六はもう參つたか、よし、俺も出張致す、暫く待て」
是れから悠々と食事をして衣類を改めたが麻上下着用大小を腰にして
佐「コレ定八ちよつと馬場迄行つてくる不在は氣を付けてろ」
定「氣を付けてろと言はッしやるが、取られるものはねえ」
佐「貴様の魂を盗まれぬ様に氣を付け、さあ中村線出すであらう」
と住居を出た

に陽氣な劍術を用ゐる陰陽調和致して人の氣も自然に引立つ、こんな好い天氣に試合をするとは陽のみ熾となつて調和を置くと云へ今日に至つて延引いたしくれとも云へまい」
中「左様でございます、時に先生今日の試合はどういふ結果に終わりますか誠に心ばかりでございます」
佐「左様サ俺が勝たずば先方が勝利を得る、又菊地が敗れると俺の勝利となる」
中「それはわかつて居ります」
佐「わかつて居ることならば問ふにも及ぶまい」
中「左様でございます」
佐「左様でございますなら黙つてゐろ」
中「ハイ、先生の勝利になることは存じて居りますが何しろ相手は曲者で、それに勝負は時の運と申す事もございませう、運命の神はあなたに宿るか、それとも菊地に宿るか」
佐「馬鹿な事を云ふナ、武藝の試合に運命はあるまい勝負の時の運ときまり居らば修業いたすにも及ばぬ、よし又運命の神が菊地の頭に宿つたならば俺はその運命の神を追拂ふ」
中「左様でございますか、その意氣にてお進みなされたいならば勝利を得ること、存じます」
佐「さうか、たしかに勝利は俺のものとは思つて居るが、さて退いて考へて見ろ菊地はなか、出来ると、さすれば大敵だナ」

中「左様でございます、人格は甚だ野卑でございますが技はすぐれて居ります」
佐「さうだ、人格と技とは別だ、あの馬鹿が本因坊に二目置きといふ悪口があるさうだナ」
中「よく先生はその様な事を御嫌知でございます」
佐「これはナ川柳と申すものにあるさうだ、厩海岸の藤澤賢坊宗匠より聞いた事だすべて藝にすぐれて居る奴は常人とはかわつてゐるナ、氣遣ひらしい處がある時に中村菊地は當家の普代か」
中「普代でございます、先祖は肥後の住人にて菊地の一族だとか聞きましてございませう」
佐「それでは南朝の忠を盡した菊地の末であらう、名家の子孫としてはゑらくねえ奴だナ」と話しながら馬場へ来た

淋病	皮膚病	婦人病	胃性
梅毒	腸病	腸虫病	傷風

松村 院 科 醫 七〇一話電

上田 外科 醫院

平町 南町
電話 二二九

謹告！
御負皆々様の御勧めに依りまして、今度花の松ヶ岡公園記念碑前に賣店を出させていたりました。
是非御立寄下さいませ様御待ち申上ます。

平町田町
電話 二二番

春のトレンドコート	7.50
春のバアパリー	3.00
春の正札堂特製トンビ	8.50
春の紺セルネツミセル外套	18.00
春の紺セルネツミセル外套	4.50
春の三ツ組セビロ	7.50

平四丁目停車場通り
正札堂
電話 四三六番

木炭代用この上のない經濟の
徳用な豆炭

壹袋正五貫目入金 八十錢也
御注文次第御届申シマス

三丁目(電話六六三番)
磐崎屋酒店

一丁目(電話五九六番)
菅本武雄商店

白銀町(電話二九九番)
水野氷店

六丁目
矢吹石炭商店

平町前(電話三七番)
阿部石炭商店

◎特約店募集致シマス

たひら正宗
罐詰鯉節
食料品各種



鹽屋
山崎合名會社

電話平
二一七〇番

醬油と味噌

春春春春！

サクラは松ヶ岡。

タクシーは不二へ！

平驛前通り

貸切
不二タクシー

電話はお馴染みの32番

御料理
旅館

住吉屋本店

電話一五九番

セル・銘仙・着尺モス・特賣

本銘仙 本セル 着尺モス

二圓五十錢
四圓五十錢
二圓五十錢

三井吳服店

電話 三八四番

最高飲料水
ユニオンビール
金線サイター

特約店 平町田町
永山酒店
電話二〇七番

イサミ足袋 代理店

洋品問屋
足袋問屋
横山彰介商店

電話九十四番

— 地 在 所 店 支 —

平 郡 關
 郵 山 本
 四 便 電 電
 丁 局 郡 平
 目 前 山 三 三
 番 二 八 番
 前 前 前

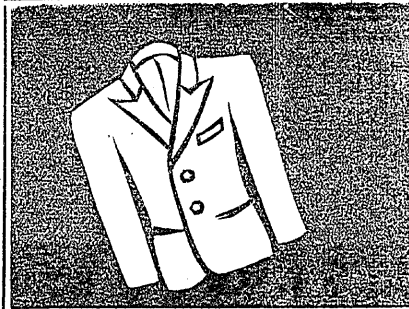


社 會 式 株 油 石 本 日

店 約 特

店 油 内 關

番 六 一 話 電



合 服 と
 レイン・コート

御召替は今です……………
 キツト皆様の御氣に召す
 1933の春の新製品を豊富
 に取揃へ陳列して御座い
 ます。

新柄 背 廣……12.00
 黒セル背 廣…… 9.00
 レインコート…… 9.00
 パー バリ…… 3.20
 トレンチコート… 5.00

ふかや洋服店
 平二 電203

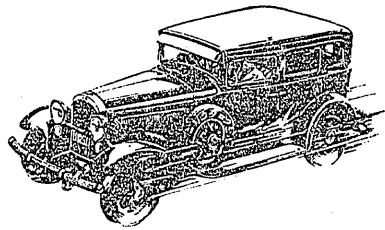
春の子供服賣出中

陸上貨物
 運搬請負

トラック部

三九二タクシー
 マツザキ
 電話 三九二
 四四九 番

タクシー界の
 元祖!



優等
 入選



石城酒造組合
 催 唎酒會

辰の日本店
 販賣店
 平窪村(電話二八五番)
 平町二丁目(電話五四六番)

名産平城 磐
 北海屋の

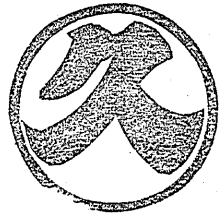
ちんちん

番 八 八 三 話 電 ・ 二 平

割烹末廣

電話四二一番

和洋銅鐵



金物問屋

金屋商店

電 九 九 九 番

日本料理一式

牛肉 鳥なべ
石川亭

電 四 三 番

…お花見の御歸りには…
…是非お寄り下さい…

日本ゼネラルモーターズ株式会社

シボレー・ポントアック・ベツトホード自動車販売店

ダウドリツチタイヤ
各種自動車用品 特約販売店



株式会社 福島モーター商會

平出張所

販賣部
サービス部

平町三丁目
電 一 八 七

本社 福島市
支店 山形市

カクニ石鹼

優秀な品質は！

最高の原料を使用し
利益を外に
奉仕の信念に依つて
生れたからだ

価格の低廉は！

何時も有名品の
トップを切る
ツルヤは絶えず感謝と奉仕の
信念を持つ

吾々は之を光榮とする
カクニ石鹼はその表現の一端に
過ぎない

ツルヤ

電 一 四 〇

1ヶ10セツ……1ダマ120セツ

市川産
ウニヤキ
貝焼
干や巻

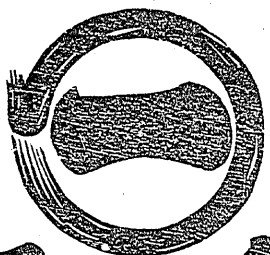
電 二 一 三 番

最優最大

日本生命平代理店

志賀 盛榮

平四丁目



魚問屋

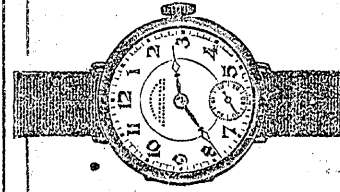
アメリカ式美顔術
シヤンブー
マニキュア
平町田町五番地

和洋結髪
毛染
御婚禮化粧着附

研美院
主任 高橋輝子
門根花



指示と調整の權威



完全なる時間は……

常盤屋の時計より

學生向クローム側時計

¥5・20より

時計時間遅速検定器設備あり

保證付無料検定致します……

計 時
輪 指
鏡 眼

常盤屋時計店

平町一丁目・電話三三九番

おみやげのオモチャ
磐城名所エハガキ
各種

いづみや玩具店へ

平 驛 前

花は満開!!!

お花見おかへりのおみやげは

旭屋一六銀行

平三・電四二五番

夜九時迄御預り致します

のびゆく春の
行樂に家族御同伴で
楽しい御食事に御立寄り下さい

コーヒー・紅茶	10
コ・ア・ソ・ダ水	15
自製ケーキ	15
カレーライス	20
ハヤシライス	25
チキンライス	30
カツレツ	25
ヤサイサラダ	30
ピフテキ	45

コンパル

平驛前新道・電六六六番

洋喫宴
食茶會

平藝妓屋組合

電話一五二番 仲家 小高子	電話二六四番 二葉家 ゆり松葉 一ろ奴	電話二七番 山形家 小太郎 小波歌	電話二〇九番 久本 ぼさた 久香	電話三五〇番 三好家 よ太 桃太 かき子 小萩	半玉 一富染喜勝千秀 千多太代 丸代奴子郎駒勇	電話八番 谷口 千秀 千太 月花金宇政 千佐 丸代龍子榮	電話一六八番 玉川 京	電話一〇二番 橘家 秀千舞 千妻 秀代 秀丸	電話一九番 米京 小京 小ぼん 富丸 たい豆奴	電話二二〇番 品澤 すすん 蝶々	電話二二六番 林家 朝花 朝花 お花 お若 お花 お千 まり代 子龍蝶蝶駒龍鯉	電話七三番 竹廻家 三島家 春輝 輝君 輝合 子枝子子	電話二六〇番 吉野家 松五郎 松若 松壽	電話四三三番 福清 秀代 喜子	電話四三四番 金榮 ます子 友み	電話二〇四番 榮家 榮た たそ 久かの 丸榮	電話二四九番 武藏 小鯉 安兵衛 子衛	電話三五四番 眞佐乃家 富奴 豆香	電話三二〇番 品澤 すすん 蝶々	電話二一六番 林家 朝花 朝花 お花 お若 お花 お千 まり代 子龍蝶蝶駒龍鯉	電話二四五番 湖 助悦 菊九 貞奴	電話二五〇番 開 高花 花秀 桃秀 駒真 羽丸 子丸	電話二五〇番 開 高花 花秀 桃秀 駒真 羽丸 子丸
---------------------	------------------------------	----------------------------	---------------------------	--	----------------------------------	--	-------------------	---------------------------------------	--	---------------------------	--	---	----------------------------------	--------------------------	---------------------------	---------------------------------------	---------------------------------	----------------------------	---------------------------	--	-------------------------------	---	---